

～ 景観だより ～

てくてく和東

第三号
(令和七年春)

発行

和東町役場まちづくり応援課

0774-78-3002

「てくてく和東」は文化的景観の調査で発見した
地域の特徴（和東らしさ）を紹介する広報紙です。

文化的景観フィールドワークを

開催しました！

重要文化的景観選定に向けて調査を実施した5地区にて文化的景観フィールドワーク「お茶と暮らしの風景を探しに行こう」を開催しました。住民さんと一緒に歩きながら、地域の特徴について教えてもらうことで、それぞれの地域の魅力を再発見することができました。

歩いてみると、

地域の魅力がたくさん



ポロっと出たひと言。
〇〇に入ることは、ピンとききますか？

今回のフィールドワークでは時間を二時間に設定し、15分…地域らしさについてのミニ講話
60分…実際に現地を歩いてみる
45分…振り返りと発見したこと共有
の3段階の流れで実施しました。
住民さんからは自身の住む地域のことをあふれるほど教えていただきました。どの地域も魅力的でお話を聞きながら実際に歩いて見ることが、地域の解像度がぐっと上がりました。こんなに素敵な地域のこと、伝えたいのはもったいない！ということで紙面を増やし、たっぷりとお伝えしていきます。



→京都府立大学文学部准教授 上杉和央先生から調査で分かった地域の特徴について始めに話を聞きました。

～ 景観だより ～

てくてく和東

第三号
(令和7年春)

フィールドワークで「みつけた」
暮らしの物語をご紹介します



釜塚のモリサン

暮らしを語る、道具たち

白栖の桜と風あげの名所

芸術的な積み方

隙間を見逃さないっ！
ひとすじの茶園

ひと休み

屋根を触ることができる！

撰原の「金五百圓」の石碑

みんなを見守る
地域のお地蔵さんたち

若草山の山焼きがみえる！？

お宮さん

味噌作り

文化的景観シンポジウム

「みんなで「みつけた」暮らしの物語」

開催！



左から

京都府立大学
上杉准教授

京都府茶業会議所
堀井会頭

奈良文化財研究所
恵谷氏

当日のプログラム

和束の魅力を深掘りするため、大きく三つの視点でシンポジウムを構成しました。

① 専門家たちが「みつけた」

和束の価値

これまで、それぞれの分野の専門家が和束の文化的景観について調査してきました。そうして「みつけた」和束の価値について京都府立大学の上杉先生に語っていただきました。

和束のなかを見て回ること、茶業の展開する過程と歴史を追うことができるという、和束だけの特徴があるようです。

② 茶商が「みつけた」

和束のお茶の魅力

和束は宇治茶の主産地です。和束のお茶を扱う茶商に話を伺いたいと考え、堀井七茗園六代目園主であり、京都府茶業会議所会頭の堀井会頭にお越しいただきました。

(下に続く)

(続き)

堀井会頭いわく、出来上がったお茶と触れあうと、その茶農家の人柄が分かる、とのこと。そして和束のお茶は非常に香りがよく、精製の工場に入った時、「今日は和束やな」というのが分かるようです。

更に和束の茶業について、茶業界の需要に応じて茶を仕上げてくれる、という特徴があることを話していただきました。碾茶生産も今後盛んになるなか、良い循環を活かし、今年も期待しているとのこと。

③ 住民さんとフィールドワークで「みつけた」和束らしさ

これまでのワークショップとフィールドワークでは、住民さんに和束の魅力をたくさん教えていただきました。その内容を奈良文化財研究所の研究員、恵谷氏にまとめていただきました。

聞き取った内容の詳細は地図のイラストに落とし込んでパネル化し、当日展示しました。今後も展示をする予定なので、ご興味のある方は、ぜひ見に来てください。

「○○な坂」どんな坂？

住民さんと話しながら一緒に歩いてみると、和束の暮らしをあらわす言葉がいっぱい出てきました。

例えば、

けんな・・・けわしい
なるい・・・(坂だけど)ゆるやかな
ろつくな・・・平坦な

という和束ことばを教えて貰いました！

今回、我々は住民さんたちと茶園のなかのけんな坂をあがり、集落のなるい道を進み、ろつくなところでひといき休憩しながらフィールドワークをしました。



茶園のまご

まだまだあるよ！和束ことば

- ・まくばる・・・茶刈り袋を順に配る
- ・くみる・・・お茶の葉が悪くなる
- ・せんだいの畑・・・家の前の茶園のこと
- ・まご・・・やむを得ず短くなった畝
- ・いぼ・・・茶園にある小屋
- ・トグサレ・・・泥岩の石積みのお土
- ・いん・・・うん
- ・いーん・・・そうなんや
- ・いんいん・・・はいはい
- ・せえてせかへん・・・急いでいる、手早くゆっくり
- ・ツンノコ・・・渋柿のこと
- ・シュウロ・・・シュロ などなど

言葉からみえる和束らしさ

和束では、山あいの起伏ある地形を巧みに利用し、家屋や茶工場を建て、山を切り開き、茶園を広げていきました。こうして長い年月をかけ、自然や地形を活かして暮らしを営んできた和束だからこそ、数多くの土地の特徴をあらわす言葉や茶業の中で使われる多様な言葉が生まれたと考えられます。

出張！てくてくコーナー

・杣田の春祭り(四月六日)に行ってきました！

例年は稲荷神社、毘沙門、八王子神社の三社寺を渡り歩いてお参りをするのですが、当日の天候不順により、公民館での実施となりました。各社寺をお参りをした後には紅白どちらかのおまんじゅうをひとつ、おさがりいただきました。

地域のなかで大切に続けられている行事に参加させていただき、貴重な経験でした。白栖の調査で「ゴーさん」発見！

毘沙門寺でもらったネコヤナギの木にお札を挟んだ「ゴーさん」を、五穀豊穡と病害虫除けを祈願して苗代の端に刺します。

和束に春がやってきました。

お知らせ



みなさま、「てくてく和束」を閲覧いただきありがとうございます。

今後も文化的景観の補足調査を実施する予定です。ご協力のほど、お願いいたします。引き続き情報収集集中ですので問い合わせはまちづくり応援課岩本まで。